

核不拡散をめぐる国際情勢

原子力委員会国際協力専門部会

1997.2.4 大阪大学 黒沢 満

1 冷戦終結後の核拡散の動き

湾岸戦争とイラクの核兵器開発の暴露 安全保障理事会決議687

UNSCOM/IAEA査察

北朝鮮の核疑惑 1991保障措置協定の締結 冒頭報告/特定査察

特別査察の要請 NPT脱退を表明・一時停止/1994.10 米朝枠組み合意

ソ連の崩壊と核兵器の管理

カザフスタン、ベラルーシ、ウクライナ 1994.12.5 NPT加入

ナン＝ルーガー法、1992.6 米露アンブレラ協定

2 核拡散の危機に対する対応

1992.1.31 安保理議長声明—大量破壊兵器の拡散は国際平和の脅威

1992.4 NSGガイドライン・パート2に合意

1993.9.27 クリントン大統領声明—大量破壊兵器の拡散防止が最優先課題

1993.12.7 米国防総省—counter-proliferationを提唱 防止と防護

3 IAEAの対応

1991.9 ブリックス—特別査察と三つのアクセス—情報、サイト、安保理

1992.2 特別査察の権利の再確認/設計情報の早期提出

1993.2 ユニバーサル・レポーティング・システム

1993.6 93+2プログラムの開始—1995.6 Part1を承認

Part2の検討 -1997.1

4 NPT再検討・延長会議

過去の再検討会議との違い／冷戦の終焉、延長決定

無期限延長の決定——米国の指導力と圧力、非同盟諸国の分裂、核軍縮の進展

核不拡散と核軍縮の原則と目標／再検討プロセスの強化

日本の対応——1993.6宮沢政権未定、1993.8細川政権無期限支持

5 日本に対する核疑惑

技術的——プルトニウムの利用——悪い先例、テロ

政治的——国際——北朝鮮や中国の脅威

国内——NPT延長に対する態度／核オプションを明確に放棄せず

日米安保条約の将来

6 今後の課題

日本の政治的意思に関する諸問題——NPT、IAEA保障措置の強化

非核三原則の法制化、政策の国際的発信、ブルの政治的意味あい

日本の技術力能力に関する諸問題

プルトニウム利用——透明性増加、9ヶ国による在庫公表制度

ブル利用の説得力強化——エネルギー安全保障、経済性、環境問題

国際プルトニウム管理——余剰プルトニウム

北東アジアの安定化の努力

北朝鮮の核疑惑払拭の協力

北東アジアまたは東アジアにおける原子力平和利用での協力

北東アジア非核兵器地帯の設置